# College report

# 東京聖栄大学報

vol.11
2014.10

４号館バリアフリー工事〈関連記事２ページ〉

● CONTENTS ●


学長挨拶／４号館改修工事…… 2
大学トピックス／卒業式・入学式…… 3
研究…… 4・5
管理栄養学科・食品学科の活動…… 6・7
学生支援センターの活動／地域共創・食育イベント…… 8・9
学友会／後援会・聖栄会／人事…… 10・11
平成25年度決算報告 …… 12・13・14
教育研究施設設備拡充資金…… 14
大学附属わたなべ幼稚園／大学附属調理師専門学校…… 15
大学トピックス／学生募集要項…… 16

# 学長挨拶

学長
松本　信二

東京聖栄大学は４年制大学として10年目を迎え、創立以来初めて両学科とも全学年の定員を満たすことが出来ました。少子化の時代になり、受験生の減少が進む中でこのような結果を達成できたことは大変喜ばしいことです。また、卒業後の進路に関しても高い就職率を維持し他大学と比較しても良好な結果を示しています。このような結果は関係各位のご協力のお陰と衷心より感謝しております。

しかし、決してこれだけで満足している訳ではありません。今日本の大学は教育の質の向上が強く叫ばれ、学生が社会に出て自ら考え行動出来る人材の育成が一つの大きな目標とされています。その一例として教員が一方的に授業をするこれまでの形から、学生自身が積極的に授業に参画する形の学習への転換が求められています。そのためには何と言っても学生自身の意識の転換と予習、復習を含めた学習時間の充実が必須になります。教員側もそれに応えるため、教育に関わる研修会の開催や学生からの授業に対する意見・要望を聴くなどの努力を続けています。保護者の方々をはじめ関係各位にも学生達の学習環境作りに一層のお力添え頂き、より質の高い大学に発展できるようご協力をお願いする次第です。

# ４号館改修工事

本学の中長期事業計画の一環である４号館の改修工事は、平成26年７月末に完了した。

この工事は、本年４月に管理栄養学科教職課程（栄養教諭）を設置したことに伴い教育効果を図るための教職課程センターと教職実践演習室を配置すること、さらに両学科の教養教育の充実を図るための共通教育センターを配置すること、４号館建物のバリアフリー化として玄関スロープ及びエレベーターを新設すること、各階に男女別トイレを新設することなどが改修工事の目的であった。

１階は教職課程センター及び教職実践演習室を配置し、２階３階は講義室、４階は共通教育センター及び研究室、５階は研究室とカウンセリング室を配置した。各研究室には、教職課程および共通教育を担う主な教員が配置されている。

講義室及び教職実践演習室には、プロジェクター及びスクリーンなどのAV機器類を整備している。

玄関スロープ新設

エレベーター新設

講義室

障害者用トイレ

# 大学トピックス

## 「栄養教諭」教職課程開設

大学等における教職課程は、教育職員免許状の授与を受けるのに必要な単位が修得できるよう所定の科目等を設置した課程のことをいう。法的には教育職員免許法（平成24年８月22日最終改正）による「教職に関する科目」や「教科に関する科目」など教員としての専門科目を修得する必要がある。

本学では平成26年度入学生から文部科学大臣の認可を受け、管理栄養学科の学生を対象に「栄養教諭一種」の教職課程を開設した。小・中学校等において、今日的な課題である＜食育＞を専門に指導できる先生を養成することを目的にしている。学科の専門科目である栄養学や健康学をベースに「教職概論」や「教育原論」「教育心理学」「教育課程論」「生徒指導論」など教育者としての教育理論を学ぶ。また、教育実習等を通して子供との学び合いも体験する。

＜食育＞は、人としての「こころと身体」をつくる入口である。そして、次代を生き抜く子供たちの豊かな成長と個々の生活・学習を支えるエネルギーに資する。このことの大切さを管理栄養士の資格とあわせて本学の学生に学修してほしいと願っている。

# 卒業式・入学式

## 平成25年度　卒業式

平成25年度卒業式が、平成26年３月15日（土）わたなべ記念館において行われた。晴天の中、新しい門出を迎えたのは、管理栄養学科83名、食品学科40名の123名であった。

式は学位記授与で始まり、学長賞（最優秀賞）１名、優秀賞６名が表彰された。他に全国栄養士養成施設協会理事長賞、日本フードスペシャリスト協会会長賞、食品科学教育協議会会長賞の表彰も行われた。

続いて学長式辞では、松本信二学長が「卒業式は、決して終点ではありません。社会に旅立つ出発点です。実社会での勉強は決して楽なものではないが、新しい仕事に積極的に取り組んでください。思えば、皆さんの在籍した四年間は記憶に残る多くの出来事がありました。自然災害の多かったのもその一つです。なかでも、東日本大震災では多くの人命が失われ、自然の力の大きさ、恐ろしさを痛感しました。同時にこの災害から学んだことも少なくありません。世界中から心温まる励ましにより『絆』という言葉の素晴らしさを改めて教えられました。

これから最も大切なことは健康を維持することです。健康栄養学部で学んだプロだと言う自覚を持ち、自己管理に留意し健康な日々を送ってください。」と述べられた。

## 平成26年度　入学式

快晴の中、４月１日（火）、平成26年度入学式がわたなべ記念館において挙行された。

午前10時30分より開式となり、管理栄養学科91名、食品学科93名の新入生が式に臨んだ。

開式の辞に続き松本信二学長の式辞では、本学の沿革と建学の精神について触れ、この精神を踏まえ社会に役立つ、実学に沿った教育を実践していることや、学生生活の指針となる「校訓」に、熱意・誠意・創意の三意について次のように述べられた。「何事にも意欲的に、積極的に取り組み、常に相手の気持ちを思いやり、知識と技術・技能を生かし、既存の事柄に拘らず、新しい何かを作り出すことである。」とされた。

最後に、「本学で学ぶ４年間が有意義な学生生活になることを願っている。」と結ばれた。

# 研究

## 科学研究費助成事業（科研費）

橋場浩子教授が平成23年～25年度の３年間、基盤研究（C）にて採択された研究の成果報告書を６月30日までに文部科学省へ提出した。科研費報告書の内容は以下の通りである。今までフィックの拡散係数$D$は一定とされてきたが、濃度依存する$D$がいくつか報告されており、二元拡散収着理論で解析することができた。本理論により得られた、３種のじゃがいも中のNaClの拡散パラメーターは、ペクチン含量と共に直線的に減少し、NaClの吸着座席はペクチンを含む領域にある事が示唆された。また、３種の魚すり身中のNaClの同パラメーターは、荷電アミノ酸含量と共に直線的に増大し、NaClの吸着座席は同アミノ酸を含む領域にある事が示唆された。これらの結果より、炭水化物食材、タンパク質食材いずれの場合も、そのラングミュアー型吸着座席は食材中の荷電部分であると推測された。

なお、研究成果報告の一環として“Dual mode diffusion and sorption of sodium chloride in surimis under cooking conditions”が国際学術誌“Journal of Food Engineering 137（2014）”に掲載された。詳細はhttp://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S0260877414001034をご参照ください。

## 二国間交流事業共同研究

独立行政法人日本学術振興会が実施する二国間交流事業共同研究として藤島廣二客員教授の「高効率青果物流システムの構築に関する日中両国間比較研究（中国との共同研究：CASS）」が承認された。共同実施期間は平成26年４月から平成28年12月までの２年９ヶ月。本研究では、生鮮青果物流通を対象に、日本、中国の流通構造、特に流通効率の向上を規制する諸要素を比較分析し、相違点・相似点と特徴点を解明し、相互の青果物流通の効率性を図りながら、青果物の国際的な需給調整を可能にする国際流通の合理的なあり方を検討・提示する。

## 受託研究　「かつしかの元気食堂推進事業」に関する研究

**（研究代表者：田所忠弘管理栄養学科長、共同研究者：鈴木三枝教授、新村眞由美准教授、佐川敦子准教授。ほか管理栄養学科教員による協力）**

本学では、平成26年度受託研究のひとつとして『「かつしかの元気食堂推進事業」に関する研究』を実施している。

この研究は、本学が所在する地元自治体である葛飾区からの依頼に基づく研究活動で、「葛飾区民が食育を通じて心身ともに健康で豊かに生活できるようにします。」との葛飾区基本計画に掲げる区民の食育について、食と栄養に関する専門機関の本学に対して、研究・調査等が委託されたものです。

内容としては、健康的な食のサービスをいくつか選べる飲食店を認定し、区民の健康の維持・増進を図る事業としての「かつしかの元気食堂推進事業」について、①ヘルシーメニューの開発とメニュー集の作成、②認定食堂のメニューの栄養計算及び表示物作成、③認定食堂利用者の栄養相談、④利用者アンケートの調査分析等が行われている。９月20日には本学において、この事業を広く周知・PRするオープニング記念事業が区保健所の主催により実施され、田所忠弘管理栄養学科長が記念講演を行った。また、メニュー集の写真撮影には東京工芸大学写真学科・勝倉研究室のご協力をいただき、本学管理栄養学科学生が調理を担当し、同研究室所属学生が撮影を担当するという形で、両大教員と学生のコラボレーションが行われた。

東京工芸大学によるメニュー集の写真撮影

ヘルシーメニュー集

試食会提供メニュー

オープン記念試食会で活躍する学生

## 平成26年度　特別研究・共同研究

本学教育研究費取扱要項第２項及び第３項の規定に基づき、特別研究・共同研究を毎年度募集しており、申請された研究課題については、研究推進委員会において審査し採否の決定をしている。本年度の特別研究・共同研究計画申請について、以下の表の通り採用決定した。

**平成26年度　特別研究共同研究計画申請者一覧**

| 代表申請者 | 研究別 | 研 究 課 題 |
|---|---|---|
| 吉田　光一 | 共同 | ジャガイモの特性について |
| 前田　宜昭 | 特別 | 穀類（米、小麦及び蕎麦）の機能発現調節に関する研究（１）<br>(H26・27・28年度) |
| 橋場　直彦 | 共同 | 青年期女子における肥満の危険因子に関する検討<br>－特に運動習慣、食習慣および生活習慣病の家族歴を中心に－（第５報）<br>(H26・27年度) |
| 岡本　直也 | 特別 | 多変量標本積率を用いた正規性検定統計量について |
| 荒木　裕子 | 共同 | 発酵ソーセージ・ネームの研究 |
| 大塚　静子 | 共同 | ラットにおける飼育中のCa/P比ならびに脂肪量の違いが腎石灰化に及ぼす影響（２） |
| 片山　佳子 | 特別 | 品種別大豆による味噌の成分および機能性について<br>(委員会開催後、題名変更) |
| 鈴木　　等 | 特別 | 疾病に関連するタンパク質を特異的に認識する核酸の開発 |
| 星野　浩子 | 共同 | 食品調理加工中のメイラード反応生成物の定量及びその抗酸化能について |
| 矢島　克彦 | 特別 | 栄養素代謝と睡眠時脳波との関連に関する研究 |
| 佐川　敦子 | 共同 | 幼児期の食生活習慣について |
| 海老澤隆史 | 共同 | 酵母におけるα－アミラーゼ遺伝子の発現制御に関する研究 |
| 大須賀彰子 | 共同 | 固形脂を添加したマッシュポテトの力学的特性について |

## 平成25年度特別研究・共同研究発表会

７月26日（土）、平成25年度特別研究・共同研究発表会を開催した。松本信二研究推進委員長による開会挨拶の後、鈴木和枝教授等の教員による共同研究「わが国における糖尿病診療と教育活動の実態（第５報）－2012年度全国アンケート調査より－」、片山佳子講師による特別研究「味噌の機能性について」を始めとした計15題の口頭発表がなされ、質疑応答も活発に行われた。

# 管理栄養学科の活動　2013-2014

## 新入生宿泊研修

４月４～５日の２日間、葛西臨海公園にて新入生91名対象の宿泊研修を実施した。学生間の親睦を深めつつ、「管理栄養士とは何か」を学んだ。

## 体育祭

５月30日に開催された体育祭では、管理栄養学科２年次生が初優勝を果たした。

**管理栄養学科**
**第28回管理栄養士国家試験**

| | |
|---|---|
| 受験者 | 61名 |
| 合格者 | 53名 |
| 合格率 | 86.9% |

## 食育の絵本読み聞かせ

６月21日、地元の葛飾区立中央図書館からの依頼に応じ、本学学生が食育に関する絵本の読み聞かせを行った。

## 臨地実習報告会・国家試験受験対策講座

６月28日に臨地実習報告会を開催し、４年次生全員が現場での学習成果を報告した。７月５日には国家試験受験対策講座が開催され、報告会で刺激を受けた学生たちは熱心に受講していた。

臨地実習報告会

国家試験対策講座

# 食品学科の活動　2013-2014

## 海外研修

８日間のヨーロッパ研修がイタリア、フランスで実施された。各国の食文化、食生活を中心に学び、実際にパスタ作りを体験するなど、各自が学んだ事は多岐にわたる研修となった。

## 新入生宿泊研修

食品学科は93名の新入生を迎え、日光で１泊２日の研修が行われた。４年間の大学生活を有意義に過ごすためのプログラムであった。

葛飾区立日光林間学園

鬼怒川グランドホテル

太子食品工業　豆腐作り

## 市場見学

食の中心となる東京で食品の流通について学ぶ研修を実施した。品川で肉、太田で野菜、築地で魚の流通について見学した。また、食のマナーについての学習も実施した。

立食マナー会場での集合写真（アサヒビール本社ビル　レストランアラスカ）

## フィールド研修

２年次生は長野県高遠さくらホテルを拠点にそば打ち、ソーセージ作り、工場見学などフィールド研修を実施した。

そば打ち体験

ソーセージ作り

郷土料理講習

# 学生支援センターの活動

学生支援・就職支援

## 防災訓練

11月20日（水）に防災訓練を実施した。学内での避難訓練となったが、通報訓練やAED講習、起震車体験などを通し、防災意識の向上を図った。本学では今後も防災訓練を継続して実施し、安全の向上に努める。

## 自転車安全講座

５月２日（金）、葛飾警察署交通課長を招き、「けいしちょう自転車教室」サイトを活用した自転車安全講座を実施した。サイトを使用しながらの講座で参加学生は積極的に取り組んでいた。

## 奨学金授与式

５月27日（火）、奨学金授与式が挙行された。入試成績優秀特待生１名、学業成績優秀奨学生12名（２・３年次生各６名）が選ばれ、松本学長より奨学金が授与された。

## １年マナー講座

本学が実施している『マナー向上運動』の一環として、新入生対象マナー講座を６月30日（月）に実施した。参加者は積極的に取り組み、楽しみながら受講していた。

## ディスカッション講座

11月27日（水）、３年次生を対象に就職活動のためのディスカッション講座を開催した。講義の後、グループに分かれての模擬ディスカッションを行い、参加者は真剣に取り組んでいた。

## 就職活動体験講話

12月、就職活動体験講話を実施した。就職活動を終了した４年次生が自身の経験を踏まえ、下級生を対象に講話をした。参加者は自身の就職活動のために積極的に情報収集していた。

## 学内企業説明会

２月に４日間に亘って学内企業説明会を実施した。延べ31社の人事担当者が来校された。参加した学生は、真剣な眼差しで会社説明を聞いていた。

## 3年就職活動マナー講座

３年次生を対象に就職活動マナー講座を実施した。本格的な就職活動の開始が間近となり、学生は積極的に参加していた。実技を交えた講座で学生にとっては有意義な時間となった。

# 地域共創・食育イベント

## (一社)全国栄養士養成施設協会後援事業

平成25年度（一社）全国栄養士養成施設協会後援事業として「産学連携による幼稚園における食育」を実施した。附属わたなべ幼稚園で食育を実施し、当日の様子を『聖栄葛飾祭』で報告した。

## (公社)日本フードスペシャリスト協会共催事業

『がんばれ日本　各県の特産品を使った加工食品・料理メニュー展』（実施責任者：筒井教授）を平成25年度（公社）日本フードスペシャリスト協会共催事業として実施し、「東京都食育フェア」や『聖栄葛飾祭』で出展した。

## 公開講座

平成26年度は、日本の食文化講座（中西載慶非常勤講師）、キッチンハーブ講座（荒木裕子准教授）、健康栄養講座（田所忠弘教授、日清オイリオ協力）と、多種多様な講座を展開した。12月には附属専門学校の調理実習講座を実施予定。

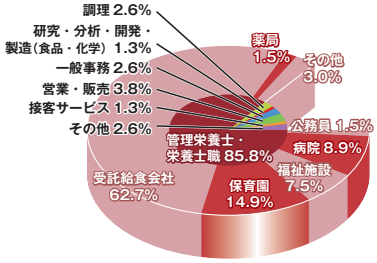
## かつしかスポーツフェスティバル

10月14日（月）に葛飾区総合スポーツセンターを主会場として開催され、本学はフードコートに参加出店した。今年度は10月13日（月）に開催予定で本学も参加協力予定である。

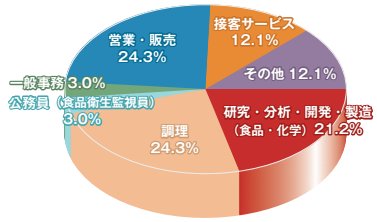
# キャリア・就職データ

## 6期生（平成26年3月卒業生）の就職状況（就職率96.5%）

### ●管理栄養学科（就職率97.5%）




### ●食品学科（就職率94.3%）




職種別就職先グラフ

## 平成26年3月卒業生就職結果

第6期生（平成26年3月卒業生）の就職率（就職希望者比）は、学部合計で96.5%と昨年度比マイナス0.5ポイントであった。学科別には、管理栄養学科が97.5%で昨年度比マイナス0.8ポイント、食品学科が94.3%で昨年度比マイナス0.6ポイントといずれも昨年を若干下回る結果となった。

しかし、就職率（卒業者比）では、90.2%と昨年度比プラス8.8ポイントと大幅に上昇する結果であった。学科別には、管理栄養学科が94.0%で昨年度比プラス10.9ポイント、食品学科が82.5%で昨年度比プラス3.8ポイントであった。

また、実質就職率（就職者/（卒業者－大学院進学者））を見ると、90.2%と開学以来最高値の結果であった。

進路・就職結果

| | 管理栄養学科 | 食品学科 | 合計 |
|---|---|---|---|
| 就職者 | 78 | 33 | 111 |
| 就職未内定者 | 2 | 2 | 4 |
| ＜就職希望者＞ | ＜80＞ | ＜35＞ | ＜115＞ |
| 進学者 | 2 | 0 | 2 |
| その他 | 1 | 5 | 6 |
| 卒業者 | 83 | 40 | 123 |

## 平成27年3月卒業生就職内定状況

㈱リクルートキャリア等の就職情報会社によると、今年度の大卒求人倍率は1.61倍と昨年（1.28倍）を大きく上回り、景気の回復を受けて大学生の就職環境は改善してきているという。

本学の4年次生の就職内定状況（8月31日現在）は、学部合計で47.6%と昨年度比プラス6.8ポイントであった。学科別には、管理栄養学科が52.3%で昨年度比プラス4.1ポイント、食品学科が42.3%で昨年度比プラス14.6ポイントといずれも昨年に比べ大幅に改善されている。

しかしまだ内定を得ていない学生も多数いるため、本学では今後も全力で就職支援を継続する。関係者の皆様のご協力をお願いいたします。

## 主な就職先

**＜管理栄養士・栄養士職＞**

**（公務員）** 東京都葛飾区栄養士

**（病院）** 化学療法研究所附属病院、（医社）威風会　栗山中央病院、（医社）三友会　三枝病院、（医社）順江会　江東病院

**（老人福祉施設）** （医社）湖聖会　特養純恵の郷、（社福）正吉福祉会、（社福）千手会　特養さくら福寿苑、（社福）高嶺福祉会　特養さつまの里

**（保育園）** （社福）柏井福祉会　すえひろ保育園、（社福）さくら学園さくら学園保育所、（社福）正愛会　南船橋保育園、（社福）清心福祉会　わらべみどり保育園、（社福）天祐会　広尾みらい保育園、（社福）東京児童協会　亀戸浅間保育園、（社福）東和福祉会　原木保育園

**（給食会社）** エームサービス㈱、㈱グリーンハウス、西洋フード・コンパスグループ㈱、富士産業㈱、㈱ＬＥＯＣ

**＜研究・分析・開発・製造（食品・化学）＞** イオンベーカリー㈱、イニシオフーズ㈱、㈱コーセー、㈱釣八、㈱ニッセーデリカ、㈱梅林堂

**＜調理＞** ㈱オーイズミフーズ、㈱神戸ゴマルゴ、㈱サイゼリア、㈱ジェイプロジェクト、㈱ゼンショーホールディングス、チムニー㈱、㈱テラケン、㈱物語コーポレーション

**＜公務員＞** 東京都特別区（食品衛生監視員）

**＜営業・販売＞** ㈱こだわりや、㈱ブロンコビリー、㈱もずキム

**＜接客サービス＞** HAMAYOU RESORT、㈱フォンス

## 周辺花植え

3月6日（木）、同好会「あぐり」を中心に葛飾区から提供された花のポット苗等の大学周辺プランターへの植え込みを実施した。平成22年に区との協定締結以来、年2回実施しており地域の美観向上に取り組んでいる。

## わんぱく相撲

5月18日（日）、わんぱく相撲葛飾区大会が開催され、本学は総合司会、模擬店出店（スタミナ焼・カレー・豚汁）で参加協力した。

## 新小岩駅前祭り

8月23日（土）・24日（日）に新小岩駅前祭りが開催された。本学は小松菜入り焼きそば・フランクフルト等の販売を行った。また、学生が天祖神社例大祭女神輿の担ぎ手として参加した。

## 柴又宵まつり

9月13日（土）、昭和レトロ柴又宵まつりが柴又駅前広場や寅さん記念館等で開催された。本学からは学友会役員10名が運営スタッフとして参加協力し、福引抽選会等を担当した。

# 学友会活動

## 会長挨拶

学友会会長　管理栄養学科３年
白川　将平

今年度、新しく学友会会長に就任しました管理栄養学科３年の白川将平です。

今年も皆様のご協力のおかげで、総会、新入生歓迎会、体育祭と前期学友会行事を無事に終了することが出来ました。有難うございました。

秋には、『聖栄葛飾祭』が行われ、各団体では、様々な企画を考えていると思います。食を学ぶ本学を地域にアピールするチャンスです。皆様の力を借りて、よりよいものを作り上げていきたいと思っているので、一緒に頑張りましょう。

より良い大学生活の為、学友会一同頑張っていきますので、これからも学友会活動にご理解・ご協力をよろしくお願いします。

## 学友会総会・新入生歓迎会

４月11日（金）、学友会総会が開催され、新役員の選出、25年度決算報告及び26年度予算案、26年度活動計画等が承認され、白川将平会長による新体制が発足した。

４月18日（金）には、新入生歓迎会が開催され、『食の流通と取引の不思議』と題し本学客員教授の藤島廣二氏による特別講演や抽選会が行われた。

## 体育祭

５月30日（金）、船橋グラウンドにて体育祭が開催された。2NAクラスが総合優勝を勝ち取り、学長賞が授与された。また、聖栄会より優勝クラスと出席率100％のクラスに賞金が授与された。当日は晴天に恵まれ、全プログラムが滞りなく終了し、親交を深めた一日となった。

## 聖栄葛飾祭

11月８日（土）、９日（日）の両日に『聖栄葛飾祭』が開催される。今年の『聖栄葛飾祭』では例年と同様に葛飾区の後援や地元自治会の協力等を得て、地元密着の大学祭として開催される。

今年のテーマは「一食入魂 ～ True love for foods ～」に決定した。多くの方のご来場を心よりお待ちしております。

### 平成26年度　部・同好会一覧

| 部名 | 学生代表 | |
|---|---|---|
| 食品加工研究部 | 食品学科　３年 | 黒須　楓 |
| 調理実習部 | 管理栄養学科　３年 | 髙安　香奈子 |
| 硬式テニス部 | 管理栄養学科　３年 | 中沢　真帆 |
| 合気道部 | 管理栄養学科　４年 | 小川　詩穂 |
| バレーボール部 | 管理栄養学科　３年 | 横井　ひかる |
| バスケットボール部 | 食品学科　３年 | 祝迫　淳也 |

| 同好会名 | 学生代表 | |
|---|---|---|
| ダンス同好会 | 管理栄養学科　３年 | 桑子　祐美 |
| バドミントン同好会 | 管理栄養学科　２年 | 内田　雅壽 |
| 軽音楽同好会 | 食品学科　３年 | 藤崎　勇将 |
| あぐり | 食品学科　３年 | 田中　梓 |
| ソフトテニス同好会 | 管理栄養学科　２年 | 印南　詩織 |
| フットサル同好会 | 食品学科　３年 | 小島　優人 |
| 野球同好会 | 食品学科　３年 | 川又　靖浩 |
| 聖栄ピアヘルピングワークス | 食品学科　３年 | 石井　佑実 |
| パン同好会 | 食品学科　２年 | 村松　明日佳 |
| 吹奏楽同好会 | 管理栄養学科　４年 | 中野　晴加 |
| サッカー同好会 | 管理栄養学科　３年 | 大澤　弘昂 |
| 伝統洋菓子研究同好会 | 管理栄養学科　３年 | 大森　路子 |
| ボランティアの会 | 管理栄養学科　２年 | 小島　花織 |

# 後援会の活動

後援会会長
**村本光方一**

後援会がいつも円滑に運営され、着実な成果を上げております事は、教職員の皆様並びに諸先輩方の並々ならぬご苦労、保護者の皆様の理解あるご協力の賜物と存じ、心より感謝申し上げます。

東京聖栄大学も開学以来10年目の佳節を迎え、第10期生の新入生もはつらつと入学されました。

先輩方と共に新しい息吹で、伝統を築いて行って貰いたいと期待しています。

私たち後援会一同も、今後の学生への支援及び大学の発展向上の為、教職員の皆様、保護者の皆様と連携を取り、情報交換会、懇親会、年２回の後援会会報等の活動を通して更に寄与して参りたいと思っております。

## 後援会の主な活動

**平成26年度**

○保護者懇談会開催（10月４日（土））
　保護者と教職員の情報交換会
○後援会会報の発行（年２回発行予定）
　10月１日付
　３月20日付
○会議の開催

| | |
|---|---|
| 定期総会 | ４月１日（火） |
| 役員会 | ６月７日（土） |
| | ３月下旬 |
| 役員四役会 | ２月下旬 |

# 聖栄会の活動

聖栄会会長
**高橋　興亜**

平成26年度の聖栄会定期総会を、６月１日の日曜日に東京聖栄大学に於いて開催いたしました。

今年度は聖栄会の更なる充実を期し、会則を一部改正し各県に聖栄会支部を置けることといたしました。各分野で活躍されております同窓の方々が大勢おりますのでその力を結集し、それぞれの地域に支部が根づくように、支援のあり方と組織の拡充を目指し活動する所存です。

また、会員の資質向上や大学事業にも積極的に参加し、聖栄会と母校の発展に寄与してまいりたいと思っております。

## 聖栄会の主な活動

**平成26年度**

| | |
|---|---|
| ４月 | 「聖栄会だより」の発刊 |
| ５月 | 学友会主催　体育祭に協賛参加<br>（会長賞・チームワーク賞の贈呈） |
| ６月 | 平成26年度定期総会並びに懇親会の開催 |
| 10月 | 食文化研究会の開催<br>（隋園別館において中国料理の研究） |
| 11月 | 大学祭への参加<br>（餅つき協賛・聖栄会お茶席を設ける） |
| ３月 | 東京聖栄大学卒業生に記念品を贈呈<br>※役員会開催<br>（全体役員会２回・その他の役員会随時） |

# 人事異動

（順不同　敬称略）

**〈役　員〉**
**退任　平成26年２月28日付**
理　事　渡邉　　悟
**就任　平成26年３月27日付**
理　事　渡邉由美子
**〈教　員〉**
**昇任　平成26年４月１日付**
教　授　　鈴木　三枝
准教授　　佐川　敦子　　鈴木　　等
**採用　平成26年４月１日付**
教　授　　有村　久春　担当教科「教育原論」他
　　伏脇　裕一　担当教科「機器分析学」他
客員教授（常勤）
　　藤島　廣二　担当教科「フードシステム論」
特任教授（非常勤）佐藤　哲司「英語Ⅰ」
准教授　大須賀彰子　担当教科「食品官能評価・鑑別法」他
助　手　海老澤隆史　　筒治由紀子
**補職　平成26年４月11日付**
図書館長　教授　　有村　久春
　**平成26年９月１日付**
教職課程センター長　教授　有村　久春
**非常勤講師（新規委嘱）平成26年４月１日付**
内野　昌孝　担当教科「バイオテクノロジー実験」
田中　厚子　担当教科「食事介護論」
田中瑠美子　担当教科「英語Ⅰ・Ⅱ」
嶺井　正也　担当教科「教職概論」他
吉川　惠則　担当教科「食品衛生学Ⅰ」
**退職　平成26年２月15日付**
教　授　　渡邉　　悟
　**平成26年３月31日付**
教　授　眞木　俊夫　　品川　弘子　　加沢　恒雄

**〈職　員〉**
**採用　平成25年12月10日付**
大学事務部学務課　課長代理　横塚　友子
**平成26年２月１日付**
大学図書館司書　佐久間浩恵
**平成26年３月１日付**
大学事務部入試・広報課　早川　里子
**平成26年４月１日付**
総務部財務課（兼務：施設管理課）　三枝　綾子
企画調整室（兼務：情報処理センター・学務課）
田中　祐平
**平成26年９月１日付**
総務部総務課　伊藤　　崇
総務部総務課　山田　愛美
**昇任　平成26年７月１日付**
総務部財務課長　松浦　健治（総務部財務課長代理）
総務部財務課主任　島田　健晴
大学事務部学務課長　横塚　友子（事務部学務課長代理）

# 平成25年度決算報告

学校法人東京聖栄大学

平成25年度の財政状況は、収入面では、定員充足率の上昇により学生納付金の増収及び資産運用などの増収により、帰属収入は前年度比6800万円増加した。支出面では、人件費支出は前年度比1400万円減、教育研究経費は2300万円増となったが、消費収支計算書の消費収支差額（消費収入－消費支出）は2100万円の支出超過で収まった。また、帰属収支差額（帰属収入－消費支出）は、9700万円の**収入超過**となり、**帰属収支差額比率**がプラス6.7％となって収支状況は開学以来最高の収入超過となった。

## 1．資金収支計算書

平成25年度資金収支の決算規模は、53億5900万円となり、前年度比７億9100万円の増となった。

前年度繰越支払資金を除く当年度の収入額は、37億6300万円であり、支出額は41億8100万円となった。この結果、次年度繰越支払資金は11億7800万円になり、前年度比４億1900万円減になった。

**資金収支計算書**（平成25年４月１日から平成26年３月31日まで）　（単位　千円）

| | 科目 | 予算 | 決算 | 差異 |
|---|---|---|---|---|
| 収入の部 | 学生生徒等納付金収入 | 1,101,127 | 1,122,634 | △21,507 |
| | 手数料収入 | 23,086 | 23,097 | △11 |
| | 寄付金収入 | 7,050 | 8,445 | △1,395 |
| | 補助金収入 | 157,819 | 157,819 | 0 |
| | 国庫補助金収入 | 110,677 | 110,677 | 0 |
| | 地方公共団体補助金収入 | 47,142 | 47,142 | 0 |
| | 資産運用収入 | 36,650 | 37,850 | △1,120 |
| | 資産売却収入 | 2,021,010 | 2,021,156 | △146 |
| | 事業収入 | 8,000 | 11,757 | △3,757 |
| | 雑収入 | 64,770 | 87,867 | △23,097 |
| | 前受金収入 | 558,528 | 542,852 | 15,676 |
| | その他の収入 | 329,057 | 331,792 | △2,735 |
| | 資金収入調整勘定 | △595,633 | △582,058 | △13,575 |
| | 前年度繰越支払資金 | 1,596,247 | 1,596,247 | |
| | 収入の部合計 | 5,307,711 | 5,359,459 | △51,748 |
| 支出の部 | 科目 | 予算 | 決算 | 差異 |
| | 人件費支出 | 768,467 | 786,976 | △18,509 |
| | 教育研究経費支出 | 271,987 | 280,434 | △8,447 |
| | 管理経費支出 | 98,172 | 96,422 | 1,750 |
| | 借入金等利息支出 | 2,640 | 2,640 | 0 |
| | 借入金等返済支出 | 12,220 | 12,220 | 0 |
| | 施設関係支出 | 265,808 | 283,918 | △18,110 |
| | 設備関係支出 | 72,356 | 72,301 | 55 |
| | 資産運用支出 | 2,516,890 | 2,646,890 | △130,000 |
| | その他の支出 | 20,750 | 21,929 | △1,179 |
| | 〔予備費〕 | 10,000 | | 10,000 |
| | 資金支出調整勘定 | △21,436 | △21,941 | 505 |
| | 次年度繰越支払資金 | 1,289,857 | 1,177,670 | 112,187 |
| | 支出の部合計 | 5,307,711 | 5,359,459 | △51,748 |

## 2．消費収支計算書

帰属収入は14億6200万円であり、前年度比6800万円増となった。基本金組入額１億1900万円を控除した消費収入合計額は、13億4300万円となった。これに対して、消費支出の合計額は13億6500万円であったので、当年度の消費収支計算における消費支出超過額（消費収入－消費支出）は2100万円にとどまった。前年度からの繰越消費支出超過額が３億1800万円であり、基本金取崩額が2000万円となったため、翌年度繰越消費支出超過額は３億2000万円となった。

**消費収支計算書**（平成25年４月１日から平成26年３月31日まで）　（単位　千円）

| | 科目 | 予算 | 決算 | 差異 |
|---|---|---|---|---|
| 消費収入の部 | 学生生徒等納付金 | 1,101,127 | 1,122,634 | △21,507 |
| | 手数料 | 23,086 | 23,097 | △11 |
| | 寄付金 | 9,574 | 10,820 | △1,246 |
| | 補助金 | 157,819 | 157,819 | 0 |
| | 国庫補助金 | 110,677 | 110,677 | 0 |
| | 地方公共団体補助金 | 47,142 | 47,142 | 0 |
| | 資産運用収入 | 36,650 | 36,499 | 151 |
| | 資産売却差額 | 0 | 11,859 | △11,859 |
| | 事業収入 | 8,000 | 11,829 | △3,829 |
| | 雑収入 | 64,770 | 87,869 | △23,099 |
| | 帰属収入合計 | 1,401,026 | 1,462,426 | △61,400 |
| | 基本金組入額合計 | △127,908 | △119,019 | △8,889 |
| | 消費収入の部合計 | 1,273,118 | 1,343,407 | △70,289 |
| 消費支出の部 | 科目 | 予算 | 決算 | 差異 |
| | 人件費 | 757,561 | 782,114 | △24,553 |
| | 教育研究経費 | 468,708 | 459,266 | 9,442 |
| | 管理経費 | 110,430 | 105,488 | 4,942 |
| | 借入金等利息 | 2,640 | 2,640 | 0 |
| | 資産処分差額 | 750 | 13,377 | △12,627 |
| | 徴収不能額 | 0 | 1,990 | △1,990 |
| | 〔予備費〕 | 6,000 | | 6,000 |
| | 消費支出の部合計 | 1,346,089 | 1,364,875 | △18,787 |
| | 当年度消費収入超過額 | 0 | 0 | |
| | 当年度消費支出超過額 | 72,970 | 21,468 | |
| | 前年度繰越消費支出超過額 | 318,463 | 318,463 | |
| | 基本金取崩額 | 0 | 20,253 | |
| | 翌年度繰越消費支出超過額 | 391,433 | 319,678 | |

## 3．貸借対照表

25年度末の資産の部合計は前年度末比１億2200万円増の96億7200万円である。

負債の部合計は10億4900万円となり、前年度末比2500万円増加した。

基本金の合計額は89億4300万円になり、前年度末比9900万円増となった。

消費収支差額の部合計額は支出超過額が△３億2000万円で、前年度末比100万円増となった。

**貸借対照表**（平成26年３月31日）　（単位　千円）

| 資産の部 | | | |
|---|---|---|---|
| 科目 | 本年度末 | 前年度末 | 増減 |
| 固定資産 | 8,414,175 | 7,857,932 | 556,243 |
| 有形固定資産 | 5,769,546 | 5,612,226 | 157,320 |
| 土地 | 1,889,400 | 1,889,400 | 0 |
| 建物 | 3,351,705 | 2,963,950 | 387,755 |
| その他の有形固定資産 | 528,441 | 758,876 | △230,435 |
| その他の固定資産 | 2,644,629 | 2,245,706 | 398,923 |
| 流動資産 | 1,257,743 | 1,691,671 | △433,928 |
| 現金預金 | 1,177,670 | 1,596,247 | △418,577 |
| その他の流動資産 | 80,073 | 95,424 | △15,351 |
| 資産の部合計 | 9,671,918 | 9,549,603 | 122,315 |
| **負債の部** | | | |
| 科目 | 本年度末 | 前年度末 | 増減 |
| 固定負債 | 421,046 | 438,128 | △17,082 |
| 長期借入金 | 122,200 | 134,420 | △12,220 |
| その他の固定負債 | 298,846 | 303,708 | △4,862 |
| 流動負債 | 627,508 | 585,662 | 41,846 |
| 短期借入金 | 12,220 | 12,220 | 0 |
| その他の流動負債 | 615,288 | 573,442 | 41,846 |
| 負債の部合計 | 1,048,554 | 1,023,790 | 24,764 |
| **基本金の部** | | | |
| 科目 | 本年度末 | 前年度末 | 増減 |
| 第１号基本金 | 8,813,042 | 8,489,464 | 323,578 |
| 第２号基本金 | 0 | 224,812 | △224,812 |
| 第４号基本金 | 130,000 | 130,000 | 0 |
| 基本金の部合計 | 8,943,042 | 8,844,276 | 98,766 |
| **消費収支差額の部** | | | |
| 科目 | 本年度末 | 前年度末 | 増減 |
| 翌年度繰越消費支出超過額 | △319,678 | △318,463 | △1,215 |
| 消費収支差額の部合計 | △319,678 | △318,463 | △1,215 |
| 科目 | 本年度末 | 前年度末 | 増減 |
| 負債の部、基本金の部および消費収支差額の部合計 | 9,671,918 | 9,549,603 | 122,315 |

## 4．財産目録

資産は、基本財産が58億3000万円、運用財産34億7700万円、収益事業財産３億7200万円で、資産総額は96億8000万円である。負債は、固定負債４億2100万円、流動負債６億2800万円、収益事業用負債700万円で負債の部合計は10億5500万円である。

資産総額から負債総額を引いた**正味財産**は86億2400万円であり、前年度末比9800万円増加した。

**財産目録　25年度（総括表）**（平成26年３月31日現在）　（単位　千円）

| | |
|---|---|
| Ⅰ資産総額 | 9,679,606 |
| 内 基本財産 | 5,830,306 |
| 運用財産 | 3,477,203 |
| 収益事業財産 | 372,097 |
| Ⅱ負債総額 | 1,055,157 |
| Ⅲ正味財産 | 8,624,449 |

| 区分 | 金額 | |
|---|---|---|
| 資産額 | | |
| １．基本財産 | 5,830,306 | |
| 有形固定資産 | 5,769,546 | |
| 土地 | | 1,889,400 |
| 建物 | | 3,351,705 |
| 構築物 | | 75,753 |
| 教研機器備品 | | 210,438 |
| その他の機器備品 | | 13,435 |
| 図書 | | 155,878 |
| 車両 | | 8,107 |
| 建設仮勘定 | | 64,830 |
| その他の固定資産 | 60,760 | |
| 借地権 | | 59,900 |
| 電話加入権 | | 860 |
| ２．運用財産 | 3,477,203 | |
| 現金預金 | | 1,177,670 |
| 定期預金 | | 330,000 |
| 有価証券 | | 1,515,539 |
| 差入保証金 | | 9,070 |
| 退職給与引当特定資産 | | 20,060 |
| 減価償却引当特定資産 | | 344,791 |
| 未収入金 | | 76,305 |
| 販売用品 | | 176 |
| 前払金 | | 3,308 |
| 仮払金 | | 284 |
| ３．収益事業用財産 | 372,097 | |
| 土地 | | 185,313 |
| 建物 | | 163,178 |
| 構築物 | | 412 |
| 現金預金 | | 23,131 |
| 前払金 | | 63 |
| 資産の部合計（A） | 9,679,606 | |
| 負債額 | | |
| １．固定負債 | 421,046 | |
| 長期借入金 | | 122,200 |
| 退職給与引当金 | | 298,846 |
| ２．流動負債 | 627,508 | |
| 短期借入金 | | 12,220 |
| 未払金 | | 19,205 |
| 前受金 | | 542,852 |
| 預り金 | | 47,521 |
| 研修旅行費預り金 | | 5,711 |
| ３．収益事業用負債 | 6,602 | |
| 前受金 | | 1,296 |
| 未払法人税 | | 306 |
| 預り保証金 | | 5,000 |
| 負債の部合計（B） | 1,055,157 | |
| 正味財産（A）－（B） | 8,624,449 | |

## 5．５ヵ年連続消費収支計算書（25年度）

平成21年度から25年度までの過去５年間の連続消費収支計算書は別表の通りである。

以上

**５ヵ年連続消費収支計算書**（24年度）

| | 平成21年度 | | 平成22年度 | | 平成23年度 | | 平成24年度 | | 平成25年度 | | 全国平均 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 金　額 | 構成比率 | 金　額 | 構成比率 | 金　額 | 構成比率 | 金　額 | 構成比率 | 金　額 | 構成比率 | 医歯系を除く |
| 収入の部 | 千円 | % | 千円 | % | 千円 | % | 千円 | % | 千円 | % | % |
| 学生納付金収入 | 988,583 | 83.4 | 1,003,922 | 78.0 | 1,018,198 | 79.1 | 1,048,125 | 75.2 | 1,122,634 | 76.8 | 73.4 |
| 手数料収入 | 17,243 | 1.5 | 22,927 | 1.8 | 22,480 | 1.7 | 31,033 | 2.2 | 23,097 | 1.6 | 2.5 |
| 寄付金収入 | 7,567 | 0.6 | 10,516 | 0.8 | 12,563 | 1.0 | 10,639 | 0.8 | 10,820 | 0.7 | 2.0 |
| 補助金収入 | 133,070 | 11.2 | 139,212 | 10.8 | 176,246 | 13.7 | 171,929 | 12.3 | 157,819 | 10.8 | 12.6 |
| 資産運用収入 | 17,136 | 1.4 | 16,953 | 1.3 | 18,030 | 1.4 | 26,977 | 1.9 | 36,499 | 2.5 | 2.1 |
| 資産売却差額 | 0 | 0.0 | 105 | 0.0 | 0 | 0.0 | 228 | 0.0 | 11,859 | 0.8 | 0.8 |
| 事業収入 | 14,428 | 1.2 | 8,459 | 0.7 | 7,384 | 0.6 | 10,712 | 0.8 | 11,829 | 0.8 | 3.4 |
| 雑収入 | 7,438 | 0.6 | 75,799 | 5.9 | 31,840 | 2.5 | 94,875 | 6.8 | 87,869 | 6.0 | 3.1 |
| 帰属収入 | 1,185,465 | 100.0 | 1,277,893 | 99.3 | 1,286,741 | 100.0 | 1,394,518 | 100.0 | 1,462,426 | 100.0 | 100.0 |
| 基本金組入額 | 0 | 0.0 | △ 63,559 | △ 4.9 | △ 67,266 | △ 5.2 | 0 | 0.0 | △ 119,019 | △ 8.1 | △ 11.7 |
| 消費収入合計 | 1,185,465 | 100.0 | 1,214,334 | 95.0 | 1,219,475 | 94.8 | 1,394,518 | 100.0 | 1,343,407 | 91.9 | 88.3 |
| 支出の部 | | | | | | | | | | | |
| 人件費支出 | 678,503 | 57.2 | 748,767 | 58.2 | 690,358 | 53.7 | 795,858 | 57.1 | 782,114 | 53.5 | 52.8 |
| 教育研究経費支出 | 422,643 | 35.7 | 432,497 | 33.6 | 443,373 | 34.5 | 436,638 | 31.3 | 459,266 | 31.4 | 31.2 |
| （うち減価償却額） | (190,414) | (16.1) | (190,782) | (14.8) | (195,224) | (15.3) | (186,976) | (13.4) | (177,544) | (12.1) | (9.9) |
| 管理経費支出 | 112,258 | 9.5 | 117,274 | 9.1 | 106,059 | 8.2 | 103,725 | 7.4 | 105,488 | 7.2 | 9.2 |
| （うち減価償却額） | (12,784) | (1.1) | (12,930) | (1.0) | (11,533) | (0.9) | (10,215) | (0.7) | (9,066) | (0.6) | (1.3) |
| 借入金利息支出 | 3,519 | 0.3 | 3,299 | 0.3 | 3,080 | 0.2 | 2,859 | 0.2 | 2,640 | 0.2 | 0.3 |
| 資産処分差額 | 15,541 | 1.3 | 6,539 | 0.5 | 10,478 | 0.8 | 24,574 | 1.8 | 13,377 | 0.9 | 1.6 |
| 徴収不能額 | 534 | 0.0 | 3,612 | 0.3 | 2,795 | 0.2 | 3,658 | 0.3 | 1,990 | 0.1 | 0.1 |
| 〈予備費〉 | | | | | | | | | | | |
| 消費支出合計 | 1,232,998 | 104.0 | 1,311,988 | 102.0 | 1,256,143 | 97.6 | 1,367,312 | 98.0 | 1,364,875 | 93.3 | 95.2 |
| 当年度消費収支差額 | △ 47,533 | | △ 97,654 | | △ 36,668 | | 27,206 | | △ 21,468 | | |
| 前年度繰越消費収支超過額 | △ 529,770 | | △ 380,266 | | △ 477,920 | | △ 514,588 | | △ 318,463 | | |
| 基本金取崩額 | 197,037 | | | | | | 168,919 | | 20,253 | | |
| 翌年度繰越消費収支超過額 | △ 380,266 | | △ 477,920 | | △ 514,588 | | △ 318,463 | | △ 319,678 | | |
| 人件費依存率 | | 68.6 | | 74.6 | | 67.8 | | 75.9 | | 69.7 | 71.9 |
| 人件費比率 | | 57.2 | | 58.6 | | 53.7 | | 57.1 | | 53.5 | 52.8 |
| 帰属収支差額比率 | | △ 4.0 | | △ 2.7 | | 2.4 | | 2.0 | | 6.7 | 4.8 |
| 消費収支比率 | | 104.0 | | 108.0 | | 103.0 | | 98.0 | | 101.6 | 107.9 |

※全国平均は日本私立学校振興・共済事業団「今日の私学財政」大学法人（医歯系を除く）24年度

# 教育研究施設設備充実資金の募金について

本学は約50年に亘って、「食と栄養」に関する教育研究活動を展開し、栄養、健康など食生活の分野において社会的貢献をしてきましたが、社会の変遷は急を告げ、少子高齢化社会を迎え、いまや介護、医療、食育、食品衛生、食の安全性などに対応する資質の高い人材が求められています。

本学におきましては、こうした社会的要望に応え大学としての社会的責任を果たすためには、教育研究の更なる高度化推進を図る必要があり、教育研究環境整備充実が急務となっています。しかし、少子化などの影響で学生定員割れなどにより私学財政は厳しさがましてきているので、施設設備充実の資金には学生納付金、国庫補助金などには限度があるので、資金の相当部分は在学生保護者、教職員、卒業生、民間企業など学園関係者からの寄附金に依存せざるをえないのが実情です。

新政権が誕生し、インフレ政策を導入し経済不況から脱却が試みられていますが、まだ先行き不透明で消費者物価高騰の兆しが見えはじめ、何かと出費ご多端なところ誠に恐縮に存じますが、事情ご賢察の上何卒寄附金にご協力下さいますようお願い申し上げます。

なお、寄附金には、所得税法上の所得控除が適用されていますが、平成23年度所得税法の改正により、寄附金控除に減免額の大きい**税額控除**が適用され、一定の要件を満たした学校法人を税額控除対象法人として文部科学省が認可することになりました。一定の要件とは、『過去５年間で3,000円以上の寄附を行った寄附者の数が年平均100件以上』となっていますので、出来るだけ多数の人が寄附者になっていただき、早期にこの要件を満たして認可法人となり恒常的に有利な寄附募金活動を行って実績を高め、その状態を維持継続できる体質を構築したいと考えておりますのでよろしくお願い申し上げます。

## 募金要項

１．目　　的：教育研究施設設備拡充資金に充当するため。
２．募金目標額：２千５百万円
３．寄 付 金 額：１口　５千円（２口以上でお願いします）
４．募 集 期 間：平成27年３月31日（火）まで
５．申込書、振込方法：本学園所定の用紙をご利用ください。

◎この寄付金は任意ではありますが、何卒ご協力くださるようお願いいたします。

◎この募金は、税法上所得税の寄附金所得控除の対象となります。

（詳細については財務課募金係までお問合せください。）

お問い合わせ、ご連絡は下記にお願いします。
学校法人東京聖栄大学事務局財務課募金係　TEL 03－3692－0211㈹

## 募金受入状況

平成17年度以降25年度までの募金受入状況は下表の通りです。

この募金は、別口座にて積み立てられ募金の趣旨に則り教育研究施設設備充実のために有意義に活用させていただきます。

| 年度 | 申込件数 | 金額（円） |
|---|---|---|
| 平成17年度 | 33 | 3,150,000 |
| 18年度 | 41 | 3,750,000 |
| 19年度 | 32 | 2,700,000 |
| 20年度 | 27 | 2,500,000 |
| 21年度 | 17 | 1,600,000 |
| 22年度 | 54 | 6,465,000 |
| 23年度 | 50 | 6,790,000 |
| 24年度 | 110 | 7,910,000 |
| 25年度 | 129 | 8,385,435 |
| 総　　計 | 493 | 43,260,435 |

# 東京聖栄大学附属わたなべ幼稚園だより

25年７月大学より「産学連携による幼稚園における食育」の協力依頼を受け、「稲庭まごうどんレシピ」の開発をした学生達が、着ぐるみ人形や、ダンスで園児との交流をしながら、食育指導として、「稲庭まごうどん」を使った給食の提供をすることになりました。

まず、保護者に稲庭うどんについて知ってもらい、学生の作ったレシピを給食用にアレンジして、幼稚園の調理員とともに、学生も厨房に入り給食作りをしました。１日目は「稲庭まごうどん入りミートボール」、２日目は「稲庭まごうどん入りマーボー豆腐」、そして３日目、いよいよ待ちに待った年長児による「うどん作り」が始まりました。各グループに分かれ、①小麦粉と食塩水を混ぜ、みんなでこねます。②混ぜた小麦粉をビニール袋に入れ足ふみ、みんな並んでイチニ、イチニ。③打ち粉をし、麺棒で伸ばし、製麺機でうどんを作りました。板状に延びた麺が、製麺機から出てくると紐状になり歓声が上がりました。一生懸命作ったうどんは、かき揚げうどんにしていただきました。出来立ての手作りうどんはシコシコしてたいへん美味しく、学生・全園児みな完食しました。貴重な体験になりました。

「うどん作り」の三日間を通して伝統的な食文化に触れることができました。

又、園児たちにとって楽しい経験が、次の興味ややる気にさせる力となっていきます。

食物への興味、料理への興味。強いては生きていく力にもなって行く事と思います。

これからも、大学の先生方、学生達のお力をお借りして、園児たちの食育を進めていきたいと思っております。

# 東京聖栄大学附属調理師専門学校だより

調理業界で活躍している料理人を招いての特別調理講習会を平成25年度は３回実施した。

第一回は平成25年９月15日（水）に中国料理の講習会を四川飯店の陳建一社長にデモンストレーションをお願いした。メニューは麻婆豆腐、奶油蝦仁（エビのミルク炒め）、紅焼排翅（フカヒレの醤油煮）で、試食もでき生徒達もプロの料理人の味を堪能できた。講習会終了後は陳社長を囲み写真撮影をするものやサインを貰う生徒も多く見受けられた。また、松本学長をはじめ、食品学科の大学生も多数の希望者が参加した。

第２回は平成25年11月25日（木）にレストラン情報誌「ミシュランガイド」にて７年連続で２つ星を獲得しているフレンチレストラン「ル・マンジュ・トゥー」の谷昇オーナーシェフを招いて西洋料理の講習会を行った。今回は使用する食材（丸鶏）を生徒に事前にアナウンスしておき、谷シェフの参考デモンストレーション後に、グループごとに考えたメニューを調理し、出来上がった料理を谷シェフが公表する形で行われた。最後に谷シェフからは、現代のフランス料理は調理技術だけでなく、調理科学と理論をもとに作り上げられる料理が多いため、座学の知識が不可欠であるとの話があった。

第３回は平成26年１月28日（火）に「ミシュランガイド東京（2008）」にて１つ星を獲得した花山椒（パークホテル東京　日本料理店）の本校卒業生でもある、高田賀章料理長を招いて行った。季節感を生かした高田料理長の献立（京雑煮、真鱈のかぶら蒸し）を通常の調理実習の授業と同じように、デモンストレーション見学後に各班ごとに分かれて実習を行った。

# 大学トピックス

## 日本食生活学会第48回大会開催

５月24日（土）に本学において、日本食生活学会が開催された。研究主題は「時空を越える食生活」で、全国の学会員約120名に加えて、本学の教職員、学生も多数参加した。特別講演には（独）農研機構　食品総合研究所、安井明美氏を招き、「食品成分表2015策定に向けた作業と新規収載項目」についてお話しいただいた。主題講演は、日本女子大学教授、安倍澄子氏の「ヨーロッパのバイオオーガニック」と旅行作家・東京成徳大学教授、秋山秀一氏の「日本の旅と食―NHKラジオの旅番組を通して―」で、内容の深い講演会となった。この後のディスカッション・ミーティング「食生活と健康を考える」では、林　淳三顧問を中心に活発な意見交換が行われた。一般口頭発表は25題、ポスター発表は９題で 質疑応答も積極的に行われた。夜の情報交換会にも多数の学会員が参加し、盛況のうちに幕を閉じた。

## タイ国カセサート大学来校

６月２日（月）、タイ国立カセサート大学の食品学科長オナノン教授が同大学食品開発研究センターのパチャリーセンター長を伴って来学し、「タイ国における米加工学の改革」についてその現状を約90分に亘って講義を行った。米の主産国であるタイ国では、米の加工利用は古くから多岐に亘っており、今回はその紹介をはじめ、最近の米の品種改良、加工食品の新規開発について説明があった。特に自ら進めている米の機能性の研究およびその機能性を生かした加工食品・化粧品類等の開発については詳細な紹介があり興味深いものであった。本学でも米の機能性や加工品の開発について学生の卒業論文研究のテーマとしていることもあり、質問なども活発で非常に有益な講演会であった。講義は英語で行われたが100枚以上のスライドを使用して丁寧な説明であったため教員・学生合わせて約40名の参加者もよく理解する事が出来、有意義な講演会となった。

講演に先立ち学内諸施設を案内した。研究室や学生実験室では高度な分析機器類が揃っており、なおかつ学生が実際に使用していることに感心していた。大学全体はコンパクトだが内容が高度で充実しているとの感想を述べられた。

## 平成27年度 東京聖栄大学 学生募集要項

**東京聖栄大学　健康栄養学部（共学）/管理栄養学科・食品学科（募集定員は両学科とも80名）**

| 入試区分 | 選抜方法 | 試験日 |
|---|---|---|
| 指定校制推薦入試 | 面接・調査書 | 11月２日(日) |
| 公募制推薦入試Ⅰ期 | 適性テスト・面接・調査書 | |
| 公募制特別推薦入試 | | |
| 自己推薦入試 | 適性テスト・面接・自己推薦書・調査書 | |
| 卒業生子女等推薦入試 | 適性テスト・面接・志望理由書・調査書 | |
| 公募制推薦入試Ⅱ期 | 基礎学力検査・面接・調査書 | 12月14日(日) |

※公募制特別推薦入試は、専門高校・総合学科卒業生選抜入試です。
※各入試の詳細は本学ホームページ又は「平成27年度学生募集要項」で確認してください。

| 入試区分 | 選抜方法 | 試験日 |
|---|---|---|
| 一般入試Ⅰ期 | 学力試験・調査書 | １月28日(水) |
| 一般入試Ⅱ期 | | ２月12日(木) |
| 一般入試Ⅲ期 | | ３月１日(日) |
| センター利用入試Ⅰ期 | 平成27年度大学入試センター試験成績・調査書 | １月17日(土) |
| センター利用入試Ⅱ期 | | １月18日(日) |
| 社会人特別入試 | 筆記(化学)・小論文・面接・調査書・経歴書 | ２月12日(木) |
| 食品学科特別入試 | 基礎学力検査・面接・志望理由書・調査書 | ３月11日(水) |

**受験相談会**　10/11(土)　10/25(土)　11/29(土)

※11月８日(土)、９日(日)は聖栄葛飾祭(大学祭)にて受験相談コーナーを開設します。

■**開催時間**：各回とも13：00～16：00要予約　■**当日の内容**：平成27年度入試の概要説明、個別相談、施設見学　他

＜お問い合わせ先＞　入試・広報課　TEL：03-3692-0238(直通)　E-mail nyushi@tsc-05.ac.jp

発行　東京聖栄大学　〒124-8530　東京都葛飾区西新小岩 １－４－６
TEL：03-3692-0211（代）　URL http://www.tsc-05.ac.jp/